

# 進化する「ばん馬」

ばんえい競馬七十年の歴史の中でばん馬は改良を重ねられ、充実した馬格を備えるようになりました。大きさはサラブレッドの約二倍、体重一トンを超える馬も少なくありません。

## 現代の主流は 日本輓系(ばんけい)種

ばん馬のルーツは農耕馬として外国から輸入された大型馬。代表的な品種に、ペルシュロン種、ブルトン種、ベルジャン種があります。こうした純血種をもとにした交雑種は、かつてはどれも「半血」と呼ばれていましたが、平成十五年以降に生まれた馬は、純血種同士の混血に限り「半血」、それ以外の混血は「日本輓系種」と呼ばれています。現在の主流は、この日本輓系種、略して「日輓(にちばん)」。牽引力、登坂力、速力を追求し、ばんえい競馬のために生み出された日本独自の品種です。



(写真/山岸 伸)

## ばん馬のルーツになった主な純血種

ペルシュロン種/略称「ペル」



フランス北西部のペルシュ地方原産。8世紀頃からフランスの重種馬にアラブ種などの血が入ったものとされ、品のある容姿が特徴です。力が強く、性格はおとなしく従順。毛色は芦毛や青毛が多く見られます。ばん馬の祖とされるイレネーや1億円達成馬キンタロー、フクイチもペルシュロン系です。

ブルトン種/略称「ブル」



フランス西部のブルターニュ半島原産。肉付きがよく頑丈でスタミナがあり、日本には戦後、アングロノルマンに替わって輸入されるようになりました。毛色は栗毛、鹿毛などで、青毛は存在しません。足先に生える距毛(きょもう)が長く多いのが特徴。1億円達成馬では、タカラフジがブルトン系です。

ベルジャン種/略称「ベルジ」



ベルギーのブラバント地方原産。アメリカで人気があり、日本にもたらされたのもアメリカで農耕馬として品種改良されたベルジャン種です。首が太く、がっしりとした体格ながらスピードがあるのが特徴。栗毛が多く見られます。1億円達成馬では、マルゼンパージがベルジャン系です。

## 馬を見分けるポイント

レースに出る馬は、出走前に必ず実馬照合(個体識別)を受けます。識別のポイントとなるのは、主に次の四項目です。

### 毛色

ばん馬の代表的な毛色は、鹿毛、栗毛、青毛、芦毛の四種類。まれに、地色に白い毛がまじる粕毛(かすげ)、まだら模様のプチ毛もいる。

### つむじ

馬の毛が渦を巻いている部分を「旋毛」といい、人の「つむじ」にあたる。馬の場合はこの旋毛が額や胸など体のあちこちにあり、

体のどこに幾つあるかは生涯変わらない馬の特徴のひとつとなる。

### 顔の模様

顔のどこにどんな白斑があるかを見る。例えば額にある白斑は「星」と呼ばれ、大きさまや形により「大星」「小星」「流星」などに分かれる。

### 足の模様

左右前後のどの足にどんな白斑があるかによって判別する。



額の中央に旋毛と小星、足の先に縦長の白斑が見える。(写真/山岸 伸)

## 主な毛色の種類



**鹿毛(かげ)**  
馬体は赤褐色で、たてがみ、尾、脚の下部が黒い。毛色が黒に近く、一部が褐色のものは青鹿毛、黒鹿毛に分かれる。



**栗毛(くりげ)**  
たてがみ、尾も含めて全身の毛が黄褐色。色の濃淡はさまざまあり、柵の束のような濃褐色のものは柵栗毛と呼ばれる。



**青毛(あおげ)**  
全身の毛が黒。サラブレッドには少なく、ペルシュロンに多く見られる毛色。冬には毛先が褐色に見えることもある。



**芦毛(あしげ)**  
全体に白い毛があり、若い時は黒っぽく、年齢とともに白くなる。黒白のまだら模様のように見える馬もいる。